

こんにちは！風が気持ちよい季節になりましたね。アウガ8階から見える陸奥湾も、夏の海の色になってきました。

ここ数年、青森港には大型客船が続々と来航し、外国からの観光客も増えていますね。また、昔は青函連絡船、今はフェリーが入港する青森港には貨物船のイメージがありません。しかし、かつて青森港は外国船も入る貿易港でした。今回は、そんな時代の幕開けを祝って開かれたイベントのお話です。

日露戦争終結の翌年、明治39年（1906）5月20日に、合浦公園において「青森開港及開市二百八十年祝賀会」が盛大に開かれました。これは、同年4月1日に、熱望していた青森港の特別輸出港指定が実現したことを祝し、また青森の町づくりが始まったときから280年を経たことを記念するものでした。この特別輸出港に指定されたことで、青森港は開港場として外国とも貿易ができる港になったのでした。

この祝賀会のため、青森市の委嘱をうけた準備委員会は各町に働きかけて会員を募り、1,500名以上が協賛しました。また実際に出席したのは一部の人でしたが、総理大臣はじめ政府高官、軍の幹部、各自治体の長、青森市の関係企業役員、税関長、報道関係など451名を招待し、当日は会員・来賓合せて1,600名近くが出席しました。来賓の中には、この開港により、東北に供給する石油を直接青森へ輸入できることになったイギリス資本のライジング・サン石油会社野内出張所のフレア支配人の姿もありました。



野内の石油タンク
（『目で見える青森の歴史』より）

さらに、この機会に青森発展の功労者を顕彰するため、森山弥七郎・進藤庄兵衛・落合千左衛門など14名の故人を正賓とし、その遺族らを招待しています。それは、この開港をひとつの区切りとして青森の来し方を振り返り、国際貿易港としての未来へ踏み出そうという気持ちだったのでしょいか。

また、開催日はできれば日曜日ということで、当初5月13日に内定していました。しかし、5月2日になって、寛永2年（1625）に江戸への廻船運航が許可された日付5月15日に変更されます。ところが、開催日まで10日を切った頃に、出席を予定していた来賓の松岡農商務大臣の都合で、またまた変更となってしまいました。最終的には20日の日曜日の開催になり、かえってよかったかもしれませんがね。ただ、委員会としては歴史的に意味のある15日にできなかったことは残念だったらしく、この変更を「一大恨事」と記録しています。